

防災意識を高めるジュニア防災検定（JBK）、第3回表彰式開催（平成27年3月27日）

地震・津波や落雷、豪雨などの自然災害に対して、自分の命を自分で守れる“防災力”を養う目的の「ジュニア防災検定」。27年度受検者の中から、優れた課題提出者への第3回表彰式が3月27日、東京・拓殖大学文京キャンパスの後藤新平・新渡戸稲造記念講堂で開催され、「事前課題特別賞」37人、「事後課題優秀賞」70人、「成績優秀賞」36人の児童・生徒が表彰状を授与されました。

表彰式に続いて受賞者4組の作品発表がありました。その一つの事後課題優秀賞の山口知宏さん（岐阜・各務原市立鶴沼第二小学校6年）、若山明日香さん（同）は、市が行った防災キャンプに参加して学んだ知識や体験を、地域の防災マップ作りに役立てました。段ボールで寝床を作った避難所体験や、断層跡から過去の地震の歴史を学び、地図と年表を組み合わせたマップにまとめたそうです。

また今回の表彰式では、第1回検定から団体受検に取り組んでいる5校（清風学園清風中学校、桃山学院中学校、日本大学中学校、日本大学豊山中学校、佐野日本大学中等教育学校）に「特別賞（学校賞）」が贈られました。各学校とも同受検を生徒の防災意識づくりのきっかけとして活用。避難訓練と組み合わせたり、校外学習で地域の防災施設見学との連動を図るなど、工夫している様子が紹介されました。

同検定は予算措置による団体受検が全国12自治体に上り、来年度以降も拡大が見込まれています。来賓のあいさつで文部科学省の和田勝行健康教育・食育課長が「日本全国どこでも起こりえる自然災害、大切なことは自分の命を自分で守れる力。将来の防災リーダーとして地域の防災力を担う人材に」と期待をこめるなど、地域の防災力の向上に貢献できるものです。